

## 加古川商工会議所青年部

# 平成24年度入会案内

**【入会資格】** 商工会議所の会員事業所の経営者又はその後継者等で、年齢満25歳以上45歳以下の方。

**【入会金】** 不 要

**【年会費】** 24,000円  
(4月～9月新規加入会員24,000円、10月～3月新規加入会員12,000円)

※入会希望者は、本青年部事務局にて入会の申込をして下さい。

※役員会の承認を得た後、所定の会費を納めたときに本青年部の会員となります。



### 商工会議所青年部

#### シンボルロゴマーク

ロゴは商工会議所青年部の英語名

(Young Entrepreneurs Group)の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部のもつコンセプト(若さ・情熱・広い視野を持った経営者=Youth・Energy・Generalist)を表しています。

#### 【入会申込・お問い合わせ先】

〒675-0064 加古川市加古川町溝之口527番地の5

加古川商工会議所青年部事務局

(TEL) 079-424-3355

(FAX) 079-424-7157

# 加古川商工会議所青年部概要

## 設立目的

加古川商工会議所青年部は、会員相互の親睦と連携を密にし、企業経営者としての研鑽を積み、加古川商工会議所の事業活動への参画又は協力を通じて地区内における商工業の振興を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資することを目的とする。

## 事業内容

- (1) 会員相互の親睦と研鑽のための事業を行うこと。
- (2) 商工業に関する調査研究及び資料の収集等を行うこと。
- (3) 商工業の振興及び社会一般の福祉に寄与すること。
- (4) 商工会議所事業等の推進及び協力。
- (5) 本青年部としての意見を会頭に上申するとともに、これを必要に応じて関係方面に具申し、又は建議すること。
- (6) 商工会議所等の諮問に応じて答申すること。
- (7) 関係諸団体との連携又は協調を図ること。
- (8) その他、本青年部の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

## 加古川商工会議所青年部

### 綱 領

商工会議所青年部は  
地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い  
次代への先導者としての責任を自覚し  
地域の経済的発展の支えとなり  
新しい文化的創造をもって  
豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

### 指 針

- われわれ青年部は
- 一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
  - 一、国際社会の一員であるべき 国際人として教養を高めよう
  - 一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫 勇気と情熱を傾けよう
  - 一、文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって 歩を進めよう
  - 一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ 力を合わせ 国の礎となろう

## 【平成24年度の主な役員】

会 長	花 里 佳 治	協伸マテック(株)
直 前 会 長	藤 川 英 典	(有)藤川組
副 会 長	永 井 敏 幸	ミズノテック(株)
副 会 長	中 田 賢 吾	サンエム電機(株)
副 会 長	船 原 慶 太	(株)ハウジング山一
専 務 理 事	関 千 咲	(有)倭坊
監 事	内木場 徹	(有)内木場工務店
監 事	山 中 秀 夫	(株)稲美乳販
研 究 一 一 一 室 長	高 橋 雅 之	(有)陵和冷熱工業
絆 グループ 室 長	石 野 和 也	(有)アイ・スチール
縁 グループ 室 長	森 本 幸次郎	(有)森本電気商会
総 務 委 員 長	金 川 和 敬	(株)K・H工業
渉 外 広 報 委 員 長	大 北 和 己	(株)アルタリコ
研 修 委 員 長	衣 笠 昭 平	ふたばハウジング
交 流 委 員 長	田 中 義 人	(有)スプリング
会 員 拡 大 委 員 長	梅 田 幸 秀	梅田測量事務所
地 域 活 性 化 委 員 長	星 野 由 香	(有)ほるぶ絵本館
楽 市 実 行 委 員 長	佐々木 陽 平	ササキ地所

## 平成24年度【基本方針】

スローガン

アドバンス トゥウワード ザ ネクスト ステージ  
～ADVANCE TOWARD THE NEXT STAGE～  
われら  
輝かせろ、自らを！YEGが地域のリーダーとなる！

我らが加古川商工会議所青年部（以下、加古川 YEG）は昨年、OB の先輩方の功績はもとより、地域の皆様、行政の皆様、関係諸団体の皆様の多大な支えをいただきながら、設立 20 周年を迎えることができました。平成 24 年度は、名実ともに成熟した加古川 YEG へと成長を始める第一歩であると考えます。

YEG とは、次代の地域経済を担う後継者の相互研鑽の場として、またリーダーたる青年経済人として、資質の向上と会員相互の交流を通じ、事業所の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的に設置されています。目的をしっかりと理解し、本会の向かうべき方向をしっかりと見据え、活動が自己満足に陥らないように目標を立て、活動を推進していきます。

加古川 YEG のみならず、YEG 会員を取り巻く環境は年を追うごとに厳しくなっており、日本社会の経済環境が厳しくなっていることが原因の一つでもあります。そのような状況でも利益を出し、社会や社員に還元している企業がたくさん存在していることも事実です。業績の悪さを景気のせいにするのは、“逃げ”でしかなく、景況の変化に対応し続けるのが経営者の務めであり、工夫するところはいくらかでもあるのではないかと、努力を怠っているのではないかと、常に自問すべきであると考えます。変化に対応する機動力を持っているのは中小企業であり、大企業の急旋回は大変難しいとされています。

今こそ、YEG の創意と工夫、勇気と情熱を以って果敢に挑戦していく時期なのです。

単年度制という不連続の繰り返しの中で、これまでの思いを継承するために本年度は、組織強化活動、研修活動、地域交流活動を軸に運営し、常に存在意義を問いながらより価値ある団体へと成長することを目指します。

100 名近いメンバーを擁する加古川 YEG にとって、更なる発展を遂げるためには、組織強化は必要不可欠です。会員拡大を推進するとともに、組織力を十分に活用するために内部での正確な情報の共有化、情報伝達の迅速化を図っていきます。

研修活動では、各事業所の商売繁盛の役に立つよう事業所内での「ヒトづくり」に活用でき、自己の人間力向上の一助となる研修事業を企画します。また、普段の活動の中にもリーダーたる青年経済人としての常識、振る舞いを学べるような環境作りに努めます。

さらに、地域交流活動において、我ら YEG が地域の礎となるためには、行政、異業種、地城市民、他の地元事業所との交流を深めることは非常に意義があることです。加古川交流研究会、加古川楽市などを通して広く地元企業の PR を行うとともに、地域あつての事業所、事業所の発展あつての地域活性に繋げていきます。

また、全国には 402 の単会、約 27,000 名のメンバーが共通の目的に向かって活動を展開しています。長年出向者を出し続けている単会として、他単会の活動・運動にアンテナを張り、学ぶところを速やかに吸収し、刺激を受け、加古川流にアレンジしていくことも有効であると考えます。情報の共有をはかり、英知を集積するためにもより力強い連携と交流を持つ必要があります。もう一步踏み込んだ交流を探求します。

数年来、青年経済人として、また、地域のリーダーたるべく(※1)、故きを温ね、新しきを知ることで Change を Chance に変え(※2)、原点回帰し、創意工夫でドアを開けてきました(※3)。そして、今やらなければならない事はドアの向こう側にある次なるステージに向かって進んで行くことなのです。少しずつでもいいから確実に一歩一歩一緒に進んで行けるような一つの塊になれる筈です。

自分を磨き、輝かせ、仲間を光り輝かせる、そんな加古川 YEG を実現したいものです。ダイヤモンドがダイヤモンドでしか磨けないように、「ヒト」は「ヒト」でしか磨けません。加古川 YEG が何よりもいつまでも光り輝き続けられるようにみんなで手を携えて突き進みましょう。

(※1)2009 年度会長所信(※2)2010 年度会長所信(※3)2011 年度会長所信参照

## 【実施計画】

### (1) 会 議

- |         |            |
|---------|------------|
| ①通常総会   | 年に1回開催     |
| ②臨時総会   | 必要に応じて開催   |
| ③役員会    | 月に1回開催     |
| ④三役会    | 案件に応じて随時開催 |
| ⑤委員会    | 必要に応じて開催   |
| ⑥その他の会議 | 必要に応じて開催   |

### (2) 事 業

- ①会員相互の親睦をはかるための事業の実施
- ②研修・講演会等の開催
- ③地域振興に関する事業の実施
- ④広報活動
- ⑤他青年部、他団体との研修・交流
- ⑥行政等が実施する事業への積極的な参加・協力
- ⑦その他関係諸事業の推進

## 平成 24 年度 各室、各委員会方針・予定事業

### 総務委員会

委員長名：金川 和敬

副委員長名：網本 徹也

運営幹事名：井上 佳夫

#### <委員会基本方針>

各委員会との連携を密に図ることによって、目的意識を共有できる環境を構築し、諸事業が厳正、かつ円滑な運営となるようなサポートします。また、青年部メンバーとしての自覚を深めるためのツールを充実させ、加古川YEGの一員であることを強く意識できるよう導き、組織全体の士気を高めるよう努めます。さらには、正確かつ迅速な会務運営をし、価値ある会議の実施となるよう努め、青年部組織の根幹となりえる運営を目指します。

#### <職 務 分 掌> ◎は予定事業とする。

◎ 上期総会(4月)

● 会員名簿名刺の作成

● 役員会議事録

● 会員拡大

◎ 下期総会(11月)

● 例会の管理・運営(受付、セレモニー)

● 室連携

## ●研（みがき）グループ：渉外広報委員会・研修委員会

室名	研(みがき)グループ	室長名	高橋 雅之
担当委員会	渉外広報委員会(大北和己委員長)・研修委員会(衣笠昭平委員長)		
室方針	加古川YEGのメンバーそれぞれがブラッシュアップすることが出来、次のステージへ着実に進んでいけるような集団となるためのより良い事業ができるよう導きます。また、積極的にYEG活動に取り組める基盤を整備し、正確でわかりやすい情報を内外へ迅速に発信します。そして事業に参加したくなる環境をつくることで更なる発展のための組織力強化の一助となります。また、それぞれの委員会の特徴を活かしながらバランスのとれた運営を行い、委員会間の交流と連携を密に図り、協力体制を築き上げ円滑に活動できるよう努めて参ります。		
	ブラッシュアップ・・・[名](スル)みがき上げること。学問などの再勉強や鈍った腕や技のみがき直し。また、一定のレベルに達した状態からさらにみがきをかけること。 基盤・・・物事の基礎や基本となる事項		

### 渉外広報委員会

委員長名：大北 和己      副委員長名：貴伝名 充      運営幹事名：西川 雅高

#### <委員会基本方針>

外部との窓口となる渉外広報の立場から青年部メンバーの情報源となり情報技術の先取と実践に努め、ウェブページを効果的に活用します。正確かつわかりやすい情報を内外へ迅速に発信することによりメンバーがYEG活動に参加したくなるような環境をつくることで参加促進を行い組織力強化の一助となります。また、他単会の活動・事業にもアンテナを張り、諸会議・大会を周知出来るよう情報の共有を図るとともに、姉妹YEG締結を視野に入れた活動を行います。

#### <職務分掌>      ◎は予定事業とする。

◎ 担当月例会の企画・運営(7月)

- 兵庫YEG、近畿ブロック、日本YEG との渉外活動
- 姉妹 YEG 締結に向けての調査・研究・実践
- ウェブページの利活用
- 諸会議、大会への参加促進
- 室連携
- 会員拡大

### 研修委員会

委員長名：衣笠 昭平      副委員長名：松尾 基宏      運営幹事名：永戸 潤

#### <委員会基本方針>

地域経済を支えるリーダーたる青年経済人となるために、自らを磨き、メンバーが互いに切磋琢磨していけるステージと環境を創造します。

そのために、今、本当にYEGにとって必要なことが何なのかを考え、時代を見据えた実践的で有益な事業を行うとともに、確かな見識を身につけるための事業を行って参ります。また、加古川ブランドである「清流加宝」の魅力さをさらに探求し、持続的な地域経済の活性化に寄与できるよう醸成させます。メンバーが個々の資質を向上させ、真の経済人として逞しく活動を行うことで、自社の発展や地域経済への貢献に繋げて参ります。

#### <職務分掌>      ◎は予定事業とする。

◎ 担当月例会の企画・運営(10月)

- 清流加宝事業の検討・模索・発展
- 会員研修事業の調査・研究・実践
- 室連携
- 会員拡大

## ◎絆（きずな）グループ：交流委員会・会員拡大委員会

室名	絆(きずな)グループ	室長名	石野 和也
担当委員会	交流委員会(田中義人委員長)・会員拡大委員会(梅田幸秀委員長)		
室方針	加古川YEGが強い組織力・団結力をもって更なる発展を遂げるために、『活動を通して何が得られるのか』『YEG・自身・自社の存在意義が何なのか』を共に語り、考え、伝え、会員同士の断つことのできない深い人と人との繋がりを築きます。そして、各々の目的に向かって果敢に挑戦する勇気と情熱を持ち、知識と精神力を養う自己研鑽のできる場を創造します。YEGが一致団結し、価値ある団体へと成長する為に強固な組織づくりをして参ります。また、それぞれの委員会の特徴を活かしながらバランスのとれた運営を行い、委員会間の交流と連携を密に図り、協力体制を築き上げ円滑に活動できるよう努めて参ります。		

### 交流委員会

委員長名：田中 義人

副委員長名：安東 竜一

運営幹事名：山本 盛裕

#### <委員会基本方針>

会員同志が断つことのできない深い人と人との繋がりを築くために、心がはずんで胸が高鳴る事業を企画します。自社事業の紹介はもちろんの事ですが、自分自身がどんな人間であるのかを本音で語り、相手の考えにも耳を傾け、自身自社の成長と、地域経済の発展に繋がる交流の場を提供します。

YEGでしか経験できない事やYEGだから得られるものを追求し、あなたに出会えて良かったと感じられるような加古川YEGとなるよう委員会から発信します。

#### <職務分掌> ◎は予定事業とする。

◎ 担当月例会の企画・運営(5月)

● 会員交流事業の企画・運営(新年会、忘年会など)

● 室連携

● 会員拡大

### 会員拡大委員会

委員長名：梅田 幸秀

副委員長名：西島 康雅

運営幹事名：玉野 新之輔

#### <委員会基本方針>

加古川YEGの将来を見据え、組織力・団結力を強化するために積極的に新メンバーの誘致を図り、仲間との出会いを大切に、それが新しい絆となるよう努めます。

そして全てのメンバーに青年部活動を理解していただき、活動を通じて知識と精神力を共に養い自己研鑽することにより、メンバー個々のスキルアップとなるよう努め、自社の発展の一助とします。更には、その過程で築いた人間関係が深い絆となり、その波及効果によって加古川YEGの強固な組織づくりにも繋げていきます。

#### <職務分掌> ◎は予定事業とする。

◎ 担当月例会の企画・運営(3月卒業式)

● 新入会員、在籍年数が3年以内の会員へのオリエンテーション、各事業、例会への参加促進

● 室連携

● 会員拡大

## ◎縁（えにし）グループ：地域活性化委員会・楽市実行委員会

室名	縁(えにし)グループ	室長名	森本 幸次郎
担当委員会	地域活性化委員会(星野由香委員長)・楽市実行委員会(佐々木陽平委員長)		
室方針	加古川の豊かな未来を創造し、市民・行政・地域商工業者が共に垣根を越えた交流を図る事業を推進します。 人と人との縁を何よりも重んじ、若い企業家集団(Young Entrepreneurs Group)として事業の目的をしっかりと見定め、活動が自己満足に陥らないよう創意と工夫で、自社企業の発展・地域経済の活性化へ繋げていきます。そして、地域を担う志の高い団体を目指し邁進できるような環境づくりを行います。また、それぞれの委員会の特徴を活かしながらバランスのとれた運営を行い、委員会間の交流と連携を密に図り、協力体制を築き上げ円滑に活動できるよう努めて参ります。		

### 地域活性化委員会

委員長名：星野 由香

副委員長名：園部 祐己

運営幹事名：志野木 学士

#### <委員会基本方針>

「住みたい町、住み続けたい町加古川」となるように、地域活性化事業を実施して参ります。行政と青年経済人が垣根を越えて本音で語り合い、互いが社会の変化を把握し、切磋琢磨することで、見聞を広めてゆけるような環境づくりを行います。そして、YEGメンバーが真に欲求する自社企業の繁栄を原点とする地域経済の発展、人格形成の原点となる教育を主体とした地域文化の興隆を目指します。ひいては、将来を見据えた、市民・行政・地域商工業者の地域交流活動の礎となるよう、努めて参ります。

#### <職 務 分 掌> ◎は予定事業とする。

◎ 担当月例会の企画・運営(2月)

● 加古川交流研究会の企画・運営

● 室連携

● 会員拡大

### 楽市実行委員会

委員長名：佐々木 陽平

副委員長名：井上 拓也

運営幹事名：森田 貴治

#### <委員会基本方針>

地域商工業の振興に寄与し、市民・行政・地域商工業者が真の交流を図り加古川がより活気あふれる街となるような事業を推進します。

第10回を迎える『加古川楽市』では、今一度事業の目的を再確認し、地元商工業者・会員企業そして来場者が一体となる商工祭りを開催し、自社企業の発展・地域経済の活性化に繋げていきます。また、企画・準備・運営までのプロセスをメンバー全員が一丸となり、調査・研究し、実施して参ります。

#### <職 務 分 掌> ◎は予定事業とする。

◎ 加古川楽市第10回記念大会の企画・運営

● 商工祭りの調査・研究・実践

● 室連携

● 会員拡大

## 加古川商工会議所青年部 団体概要

- 名称 加古川商工会議所青年部  
設立 平成3年11月22日  
目的 会員相互の親睦と連携を密にし、企業経営者としての研鑽を積み、加古川商工会議所の事業活動への参画又は協力を通じて地区内における商工業の振興を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資することを目的とする。  
事務所 事務局は加古川商工会議所内（加古川市加古川町溝之口527-5）  
会員数 **99名（平成24年4月1日現在）**  
代表者 会長 花里 佳治（協伸マテック(株) 代表取締役）

### 主な事業

#### ◆商工業振興関連◆

- ・商工祭「加古川楽市」開催（平成15年～計8回）

平成22年度：（※23年度は悪天候のため中止）

日時：平成22年9月5日（土）10～17時

〃 6日（日）10～17時

場所：加古川市役所前広場

来場者：約29,000人

出店者：78ブース（物販飲食ブース57・テクニカルブース21）

共催：加古川市、後援：加古川市教育委員会



第8回加古川楽市

#### ◆地域活動関連◆

- ・山田錦仕込み泡盛

「清流加宝」製造企画

…兵庫県吉川産山田錦を使用。青年部のネットワークを活用し、沖縄YEGメンバー企業の老舗「新里酒造」にて製造。今後、加古川の新たな名産品開発を目指している。

平成17年6月 720ml×3500本発売（完売）

平成19年4月 第2弾完成・発売



- ・加古川交流研究会（加古川市職員有志と青年部メンバーとの交流会）



#### 五ヶ井水路ビオトープ再生事業

…加古川東高校生徒と粟津町内会の皆さんと協力し、汚濁していた水路を清掃浄化し、ビオトープ化、水辺に動植物と澄んだ水を取り戻した。

五ヶ井水路ビオトープ  
2004年5月完成

こどもの夢かなえ隊事業…市内小学生より『夢』を募集、応募作の中から入選作を選考。

特選に選ばれた夢の実現できるよう子ども達と一緒に努力する。

後援：加古川市、加古川市教育委員会、加古川商工会議所



平成17年度：特選の夢『世界一のかつめしをみんなで食べよう。ギネスに挑戦！』を加古川駅前ベルデモール商店街にて開催、子供たちと一緒に直径214センチの巨大かつめしを作成、約900名にふるまった。



平成18年度：特選の夢に『クリスマスプレゼントを入れる大きな靴下を作りたい』を選考し、加古川市民会館で子供達を中心に長さ約2m、幅60cmの大きな靴下を編み上げた。完成した靴下は加古川市役所ロビーや市内の商業施設に展示した。



平成19年度：特選の夢に『かこバスに絵を描きたい』を選考し、県立加古川西高校美術部員の協力を得てカットティングシートに絵付け、3台のゾーンバスの右側面、後部にラッピングした。完成したバスはそれぞれのルートを走行。



平成20年度：特選の夢に『ホテルのすめるような加古川にしたい』を選考し、加古川の本流にホテルを生息させるべく有識者を講師に招き、勉強会を開催中。

## 「主な例会活動」



平成21年度：青年部メンバーの家族を招き、日岡山公園にて家族例会を開催。巨大豚の丸焼きや巨大牛の丸焼き等のびっくり仰天な企画内容を一同楽しみながら、家族の絆・メンバー間の絆が一段と深まった。



平成22年度：講師に全国木鶏クラブ 代表世話人 会長 三木英一氏を迎え、先生の経験談をもとに講演された。その中で論語をはじめとする人間学の全勉強が如何に心を豊かにし、その人を支える柱になるかを解きほぐしていただいた。自分自身の有り方についても深く考えさせられ、今後の人生の中で役立つものになると確信した。



平成23年度：青年部設立20周年を迎え記念式典・祝賀会を開催。これまでの活動に多大なるご協力ご支援をいただいた関係者方に感謝を表すとともに、今後25周年、30周年に向けてさらなる扉を開いていくことを誓った。